

## 電磁界解析による最適設計 正誤表

本書の内容に以下の誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

お手持ちの本の「刷数」とこの表の「該当刷数」が一致する箇所をご参照ください。お手持ちの本の「刷数」の調べ方は[こちら](#)

(2024年7月3日更新)

該当刷数	頁	行数など	誤	正
1	4	図 1.2(b)	(b) 直流抵抗 $R_{dc}$ と交流抵抗 $R_{ac}$ の比	(b) 直流抵抗 $R_{dc}$ と交流抵抗 $R_{ac}$ の比
1	5	6 行目	(1.3) は $k=0$ であるため、…	(1.10) は $k=0$ であるため、…
1	7	図 1.4 (b)の説明	…渦電流をなくすことができる。	…渦電流を小さくすることができる。
1	14	図 1.7 説明の 2 行目	$d=2\text{mm}$ として…	$d=0.2\text{mm}$ として…
1	15	図 1.8(b)	$\zeta$ (図中の 6 か所すべて)	$\xi$
1	17	図 1.9 説明の 2 行目	$f(p)=1/(1+e^{-H})$ を仮定し、…	$f(p)=\tanh p$ を仮定し、…
1	22	5 行目	また、式 (1.54) より、…	また、式 (1.57) より、…
1	23	3 行目	この渦電流を打ち消すように磁気双極子モーメント $m$ が生じる。	この渦電流により磁気双極子モーメント $m$ が生じる。
1	27	下から 6 行目	…次式となる (式 (B.20) 参照)。	…次式となる (式 (B.21) 参照)。
1	51	2 行目	$\mathbf{r} = \mathbf{J}_z - \text{div}(\nu \text{grad } A_z)$	$\mathbf{r} = \mathbf{J}_z + \text{div}(\nu \text{grad } A_z)$
1	73	最下行	$\mathbf{P}$ は正定値行列となる)。この仮定は後で見直す。また、…	$\mathbf{P}$ は正定値行列となる)。また、…
1	76	式 (2.100)	$R_{ki} = \begin{cases} 1 & \text{面 } f_k \text{ の境界 } \partial S_k \text{ の向きが…} \\ -1 & \text{面 } f_k \text{ の境界 } \partial S_k \text{ の向きが…} \\ 0 & \text{それ以外} \end{cases}$	$R_{ki} = \begin{cases} 1 & \text{面 } f_k \text{ の境界 } \partial f_k \text{ の向きが…} \\ -1 & \text{面 } f_k \text{ の境界 } \partial f_k \text{ の向きが…} \\ 0 & \text{それ以外} \end{cases}$
1	78	下から 8 行目	これは、 $\mathbf{N}_2 = N_3 \nabla N_1 - N_1 \nabla N_2$ 、…	これは、 $\mathbf{N}_2 = N_3 \nabla N_1 - N_1 \nabla N_3$ 、…
1	79	式 (2.114)	$\mathbf{b}_f = \dots$	$\mathbf{b}_k = \dots$
1	110	9 行目	ここで、 $\mathbf{A} = \mathbf{K}^{-1} \mathbf{N}$ の計算のために、…	ここで、 $\mathbf{A} = -\mathbf{K}^{-1} \mathbf{N}$ の計算のために、…

該当刷数	頁	行数など	誤	正
1	116	式 (3.4)	$f(\mathbf{x}^* + \mathbf{d}) - f(\mathbf{x}) > 0$	$f(\mathbf{x}^* + \mathbf{d}) - f(\mathbf{x}^*) > 0$
1	122	下から 2行目	$g > 0$ の領域に…	$g < 0$ の領域に…
1	126	式 (3.35)	sub.to $\sum_{i=1}^m g_i(\mathbf{x}) = 0$	sub.to $g_i(\mathbf{x}) = 0, i=1, 2, \dots, m$
1	136	アルゴリズム △ 3.1	(4行目) chirdren (6行目) provability (7行目) popuration	children probability population
1	139	脚注	Ensamble	Ensemble
1	152	3.4 節 1行目	…, 複数の量を同次に最小化…	…, 複数の量を同時に最小化…
1	153	脚注 1行目	…, $f_2(1) < f_2(2)$	…, $f_2(2) < f_2(1)$
1	177	図 4.6	(縦軸) 目的関数値 $F$	目的関数値 $\log F$
1	218	下から 9行目	最適化変数 $m$ の 5 倍…	最適化変数の数 $m(\mathbf{x} \in \mathbb{R}^m)$ の 5 倍…
1	223	15行目	そのうち 1 つの組を訓練データとする.	そのうち 1 つの組を検証データとする.
1	248	図 5.21(b)	(b) $T_{avg}$ の予測結果 (磁気シールド)	(b) $T_{avg}$ の予測結果 (IPM モータ)
1	267	2行目	ブロック 1-4 は…	ブロック 1-3 は…
1	267	3行目	ブロック 5 以降の…	ブロック 4 以降の…
1	267	4行目	ブロック 1-4 で用いた…	ブロック 1-3 で用いた…
1	267	15行目	$T_{rip}$ をそれぞれ 8 つのクラスに分け, …	$T_{rip}$ をそれぞれ 9 つのクラスに分け, …
1	292	3行目	…, $\mathbf{F}_m = \int_{\partial V} \mathbf{f}_m \cdot \mathbf{n} dS$ を考えると, …	…, $\mathbf{F}_m = \int_{\partial V} \mathbf{f}_m dS$ を考えると, …
1	294	7行目	…, ガウスの法則 (Gauss law)	…, クーロンの法則 (Coulomb law)
1	296	5行目	式 (A. 61) は, …	式 (A. 62) は, …

該当刷数	頁	行数など	誤	正
1	301	下から 2行目	式 (A. 72) の右辺第 1 項は変異電流, …	式 (A. 72) の右辺第 1 項は変位電流, …
1	312	5行目	式 (B. 8) はアンペアの法則を用いて,	式 (B. 8) はファラデーの法則を用いて,
1	315	下から 5行目	…, 式 (B. 28) …	…, 式 (B. 27) …
1	321	下から 2行目	式 (B. 57) で $\mu \rightarrow \mu_0$ として	式 (B. 57) で $\mu_0 \rightarrow \mu$ として
1	337	索引	ガウスの法則 (Gauss law) 294	削除
1	338	索引	残留磁束密度 (redisual magnetic flux density)	残留磁束密度 (residual magnetic flux density)
1	338	索引	磁気飽和 (magentic saturation)	磁気飽和 (magnetic saturation)